



みんなの「生きる」を  
社会福祉法人



# 経営協力

2021

05

KEIEIKYO Vol.451

May

特集

## SDGsと社会福祉法人

～持続可能な社会に向けて社会福祉法人の力を活かす～



## CONTENTS

- |    |  |
|----|--|
| 02 | <b>ACTIVITY REPORT 経営協の活動紹介</b><br>コロナ禍における社会の変容から学ぶ<br><b>経営者セミナー2021オンラインにて公開</b><br>未来を担う若者に福祉の魅力をPR<br><b>「社会福祉HERO'S TOKYO 2020」をオンラインで開催</b> |
| 04 | <b>論点</b><br><b>福祉人材をどう確保するか</b><br>植草学園大学 副学長／毎日新聞客員編集委員 野澤 和弘  |
| 06 | 地域生活を支える社会福祉法人 第200回 社会福祉法人 光風会【富山県富山市】の試み<br><b>地域との横のつながりを活かし“気づき”を地域貢献につなげる</b><br>社会福祉法人 光風会 理事長 栗山 基通   |

- |    |  |
|----|--|
| 12 | <b>特集 SDGsと社会福祉法人</b><br>～持続可能な社会に向けて社会福祉法人の力を活かす～   |
| 13 | <b>【対談】『誰一人取り残さない』社会に向けて</b><br>～次代を見据え、いま社会福祉法人がなすべきこと<br>株式会社博報堂DYホールディングスCSRグループ 推進担当部長 川廷 昌弘<br>全国経営協アクションプラン2025検討チーム委員 梅野 高明 |
| 19 | <b>【事例①】社会福祉法人のビジョン・ミッション×SDGs</b><br>～法人内共有と地域の他団体との連携による展開～<br>社会福祉法人 悠久会 理事長 永代 秀顕  |
| 23 | <b>【事例②】保育・子育て支援×SDGs</b><br>～次代を担う子どもたちにつなぐ想い～<br>社会福祉法人 砂原母の会 保育士 高橋 宏和  |
| 27 | <b>【事例③】地域包括ケア×SDGs</b><br>～住み慣れた街で暮らし続けられる未来を～<br>社会福祉法人 和光会 理事長 山田 豪   |
| 31 | <b>【事例④】スマールステップではじめるSDGs</b><br>～いつもの活動で幸せの付加価値を～<br>社会福祉法人 雲南ひまわり福祉会 事務局長 田本 武士  |

- |    |  |
|----|--|
| 34 | <b>シリーズ 経営者の視点 第83回</b><br>栃木名産のイチゴ生産を通じて法人独自のカラーを打ち出す<br><b>地域資源を活かす経営で、地域に住むすべての人の<br/>「トータルウィン」をめざす</b><br>社会福祉法人 天成会（栃木県）理事長 島田 耕輔 |
| 40 | <b>経営協の動向</b> オンライン活用による都道府県セミナー開催、各委員会の成果物とりまとめにより経営協事業の「見える化」に取り組む   |
| 42 | <b>関連情報</b> 社会福祉法人制度関係/地域共生社会関係/高齢者福祉関係/福祉人材関係/災害福祉支援関係/全国経営協からのお知らせ   |
| 44 | <b>事務局短信</b>   |

誰一人取り残さない社会にむけて  
SDGsを活用した  
新たなつながり、価値を創造する

# SDGsと社会福祉法人

## ～持続可能な社会に向けて 社会福祉法人の力を活かす～

「持続可能な開発目標（SDGs：2015年国連サミットにおいて採択）」は、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標であり、わが国においても具体的な対応が求められている。

SDGsによる「17の目標」は、社会福祉とも関連しており、社会福祉事業を通じた取組や、地域に向けた活動から取り組むことができる内容も多い。いま、それぞれの社会福祉法人においてSDGsにどのように取り組んでいくかは、重要なテーマである。

全国経営協においても、令和3年度事業に向けてSDGsを踏まえた計画を策定し、取組を進めることとしている。

本企画では、あらためてSDGsがめざす「誰一人取り残さない」社会に向けて社会福祉法人が取り組むべきことを考察するとともに、SDGsの実現に取り組んでいる実践事例を通じて、さらに社会福祉法人における取組の広がりと充実をめざす。

### [対談]

#### 『誰一人取り残さない』社会に向けて ～次代を見据え、いま社会福祉法人がなすべきこと

株式会社博報堂DYホールディングスCSRグループ推進担当部長 川廷 昌弘 氏  
全国経営協アクションプラン2025検討チーム委員 梅野 高明

### [事例①]

#### 社会福祉法人のビジョン・ミッション×SDGs ～法人内共有と地域の他団体との連携による展開～

社会福祉法人 悠久会 理事長 永代 秀顕 氏

### [事例②]

#### 保育・子育て支援×SDGs ～次代を担う子どもたちにつなぐ想い～

社会福祉法人 砂原母の会 保育士 高橋 宏和 氏

### [事例③]

#### 地域包括ケア×SDGs ～住み慣れた街で暮らし続けられる未来を～

社会福祉法人 和光会 理事長 山田 豪 氏

### [事例④]

#### スマールステップではじめるSDGs ～いつもの活動で幸せの付加価値を～

社会福祉法人 雲南ひまわり福祉会 事務局長 田本 武士 氏

## 事例④

# スモールステップで はじめるSDGs ～いつもの活動で幸せの付加価値を～

社会福祉法人 雲南ひまわり福祉会 事務局長 田本 武士



## ① 一步を踏み出す チカラ

社会福祉法人 雲南ひまわり福祉会（以下「法人」）では、私、事務局長が発信する『TAMOTAKE チョイス』と称した企画があります。ネーミングはさておき、未来

を拓く一詩（ひとうた）として、月に2回、当法人の全スタッフに対して発信しています。いつの日か、法人へのエンゲージメント（自主的貢献意欲）につながってくれればと考え、1年半ほど前に思いつきではじめた企画です。基本的には、私がこれまでふれてきた

本や、直接お会いした方がたからご教示いただいた内容をそのまま紹介させていただいており、時として私自身の想いも伝えています。

そこで頭書に、以前ピックアップした一詩を紹介させていただきたいと思います。

### TAMOTAKE チョイス～未来を拓く一詩（ひとうた）～

#### 【今は】という言葉からは不思議な力を感じます】

物事の大半は捉え方で決まります。中には9割のことが決まるとおっしゃる方もあるくらいです。

マイナス要素に捉えられる言葉。例えば『弱い』とか『悪い』とかですね。『チームが弱くて勝てない』と表現されることもありますし、『労働条件が悪い』なんていうことで使われたりします。これらの言葉の前に『今は』を付けると、不思議とパワーをもらえる言葉に生まれ変わります。

ですが、プラス要素に捉えられる言葉の前に付けるともっと凄いことが起こります。例えば『強い』とか『良い』とかですね。『体が強い』と表現されることもあれば、『経営状況が良い』といったことで使われたりします。同じように、これらの言葉の前に『今は』を付けてみましょう。素晴らしいことに危機意識が生まれてくるはずです。

結局のところすべての事象において、今が一番いいということではなく、改善に努めていかないといけないというメッセージに聞こえてきますね。『今は』を意識し始めることで、きっとみなさんから見える景色が素敵に輝き始めますよ。

— TAMOTAKE

この一詩は私自身の想いをスタッフの皆さんに伝えたのですが、自分へのメッセージとしてとらえ

ています。ポイントは「見えない答えに対して、自分自身いかに尽力できるか」ということです。ま

ずは一步を踏み出すチカラが大切だと感じています。

## 2 SDGsを見据えた チャレンジへのきっかけ

SDGsのめざすところは「地球規模の国際目標」ですから、小規模な法人である私たちには縁遠いと感じていました。私自身意識が芽生えはじめたのは、昨年10月に地元島根県が主催した「人財塾」<sup>(※1)</sup>への登壇の依頼を受け、僭越ながら講演させていただいたときのことです。参加者の方からSDGsへの実践について質問をいただきましたが、そのときは意識して実践などしていなかったため、当然的確な回答はできませんでした。

同じころ、労務管理の専門家(TERAMOTO社会保険労務士法人)を交えミーティングを行う機会があった際、次のようなアドバイスを受けました。

「2030年を見据えた法人での新たな計画は、SDGsが定める年限と合致していますね。きっと素敵な指針になりますよ」というものでした。そのとき“ハッと”させられ、いの一番調べてみることとしました。

きっかけは、あるとき“ふつと”ひらめくのだと思います。何をはじめるにしても、難しいことを追求する必要は何もありません。大切なのは、「慢心せず、利他の心で、凡事を徹底する」想いなのだと確信しています。

## 3 SDGsを包含した取組 はマッチングから

法人では、SDGsを包含した取組について、令和3年度の事業計画に掲げたばかりです。何か特別なことをするのではなく、自分たちにできることからスタートすることとしていますが、実践に不可欠なのはスタッフ皆の意識の醸成です。

SDGsに掲げられている17の目標に向かって、スタッフ全員で意識的に取り組むこととしておりますが、何よりも継続が一番と考え、次のようなことを重要なポイントとして位置づけています。

- ①できるだけ労力を掛けない  
(既存のパワーを活用する)
- ②できるだけ経費を掛けない

まずは、自分たちがすでに実践していることとマッチングできないか検討していきます。以下に挙げる目標のいずれも、法人が現在実践していることばかりです。つまり、私たちの実践している活動は、すでにSDGsの目標を包含しています。そしていずれは、新しい取組や既存の活動に付加価値をつけたものなど、スタッフが自ら考えるアイデアと実践で、SDGsに掲げられた目標を自然と達成し、社会に貢献できるようになることを目標としています。

また、そうしたボトムアップの実践は、何よりスタッフにとっての“やりがい”につながっていくと感じています。

### 【目標1】 貧困をなくそう



法人が行っている相談支援事業(雲南市基幹相談支援センター兼)を中心に、生活に困窮されている方がたにとって、支援の橋渡しなどを行っていきます。

また、法人も加入している雲南市社会福祉法人連絡会(以下「連絡会」)<sup>(※2)</sup>では、「暮らしの安心を支える身近でなんでも相談窓口ネットワーク事業」として、日常生活において起こる困りごとや公的制度では対応が困難な問題など、市民の方がたの暮らしの改善につなげることを目的とした、いわゆる「よろず相談」を行っています。

### 【目標3】 すべての人に 健康と福祉を



この目標は、法人が実践している活動そのものです。SDGsが目標として掲げている「すべての人」については、法人では次のとおり位置づけています。

- ①スタッフとその家族
- ②外注先・仕入先とその家族
- ③ご利用者とその家族
- ④地域社会

この考え方は、「人を幸せにする経営」を掲げる「人を大切にする経営学会」会長の坂本 光司先

(※1) 地域産業の振興を牽引する次世代リーダーの養成塾です。令和2年度は、県内各地の経営者等14名が参加され、人を大切にする経営学会会長坂本光司先生(元法政大学大学院教授、“日本でいちばん大切にしたい会社”ほか著書多数)の講義や優良企業の視察など、年間6回の活動を通じて「人を大切にする経営」について学ぶものです。(島根県のホームページより抜粋)

(※2) 社会福祉法人間の繋がりを大切にし、ネットワーク機能を充実させた協議会です。雲南市内の誇れる特色は、任意加入でありながら、加入率100%(14法人全て)であることです。

生をはじめ、「人を大切にする経営学会」の皆さまからの教えに基づいています（なお、教えのなかには、前述の④の次に「株主」が掲げられており、5方良しの経営とされています）。

### 【目標8】 働きがいも 経済成長も



人生において幸せを感じられる場所が、法人であれば素敵だと思いますし、幸せになるための職場づくりを行った結果が経済の成長につながっていくのだと感じています。

### 【目標10】 人や国の不平等 をなくそう



ノーマライゼーションの理念を踏襲した法人の基本理念である「地域で共に暮らす喜びをめざし」と一致しています。

### 【目標11】 住み続けられる まちづくりを



連絡会においては「うんなん福祉・安全センター」というチーム名で地域の見守り活動を行っています。雲南警察署と連絡会が密に連携<sup>(※3)</sup>し、地域の防犯活動への協力を行うことで、地域の犯罪

ゼロを目的として実践している活動です。（ドライブレコーダーを活用した、「動く防犯カメラ事業」）

## 4 内なる目的は 法人の活動への指針

最近の諸事情を鑑みますと、「準備の大切さ」を以前より身に染みて感じています。その「準備の大切さ」は、いつもの日常があるときには感じにくいのですが、いつもの日常があるときにこそ、真に価値を示し、いつの日か試されるときが来るのだと思います。

法人では、「幸せを実感してもらうためのサービスを創る」と、「幸せになるための職場を創る」ことの2つを基本指針として掲げています。いずれもすぐに醸成できるものではなく、いつもの日常のなかで時間を掛けて築きあげていくものであり、結果として、ご利用者もスタッフも行きなくなる、集まりなくなる法人としての空間になっていくのだと思います。

SDGsを包含した活動は、この2つの基本指針を達成するための指針になるととらえています。

## 私たちが提供できる 感動を創り出す

私たちは福祉サービスを提供するプロフェッショナルです。ご利用される方やご家族にとって、

「何となくご利用いただいている、毎日のルーティーン」となってしまっているようであれば、求められるニーズに対して貢献できているとは到底いえません。

「〇〇があるから、雲南ひまわり福祉会に行きたい」を創り出すことが大切です。「ご利用者、ご家族に“わざわざ”来ていただくための価値を創り出していく」という意味です。

微力ながら私たちにも、これまで築きあげてきた魅力があります。

前述のとおり、私たちがすでに実践している活動はSDGsの目標にマッチングするものであり、微力な私たちでも、地球規模で貢献できることがあるはずです。

SDGsを包含した実践は、多岐にわたる付加価値をもたらしてくれるはずですし、その費用対効果は絶大であると感じています。ローリスクなのに、地球規模のハイリターンなら、実践しない理由などないはずです。

## 「私たちが提供できる感動を創り出す」

ともに実践し、結果として、「すべての人」にとって素敵な社会をつくっていく。その礎の一端が、私たち社会福祉法人の実践する活動だったとしたら幸せですね。

(※3) 雲南警察署と連絡会は、令和元年12月、ドライブレコーダーを活用した見守り活動のための協定を締結しています。なお、ドライブレコーダーについては、島根県からの助成金も活用させていただき、徐々にその搭載数を増やしていっています（令和2年4月現在 128／254台 搭載率50.4%。マグネットステッカー装着車数 装着率100%）